

筑前国怡土庄故地現地調査速報

服部, 英雄
九州大学大学院比較社会文化研究院 : 教授

<https://doi.org/10.15017/1520164>

出版情報 : 1999-12-31. 服部英雄研究室
バージョン :
権利関係 :

前原市大字志登・池田

修士1年 宮 西 晋
学部2年 内 田 正 樹
学部2年 永 江 洋 介

〈志登〉 平成10年3月5日実施

中村英夫氏（大正12年生）、中村広敏氏（大正15年生）、中村傳氏（昭和19年生）より聞き取り

〔集落について〕

大字志登には志登と新村の二つの集落がある。新村は志登の枝村であり、比較的新しい集落である。志登集落には土蔵などの古い建物もある。また道路を挟んで両側に屋敷地があるが、屋敷の裏に屋敷林がある。

〔水利について〕

当地区は池田川（瑞梅寺川）と雷山川に堰を設け取水している。二河川より取水できるため水は豊富である。現在は瑞梅寺ダムの設置により流量は減少し、雷山大池のある雷山川の方が割合的に多いが、ダム建設前は、瑞梅寺川を主としていた。

堰は池田地区の池田川に犬神井堰があり、波多江地区の雷山川に片福井堰とよばれる堰がある。2つの堰からそれぞれ1本ずつの用水路が池田地区を縦断して設けられているが、この水利権は志登地区にあり、池田地区は自由にできない。池田地区に堰を設けるのは、瑞梅寺川が板持付近で川底が上がり浅くなるためである。

犬神井堰から池田を経て流れてきた水は志登に入ると地区の東側に配分される。また現在は工場になっているが、十年前程前には志登池があり、犬神井堰からの水を一時保管する役割を持っていた。排水は志登神社の北側にある「めくら川」（弁天川）に集められ元岡方面へ流される。「めくら川」の名称は特に水源を持たず、志登地区の排水に依っていることからそうつけられた。弁天川は前原市が名づけたものである。

片福井堰からの水は志登に入ると地区の西側に配分される。また川向こうの字坂本・梶取へは一度雷山川へ水を落とし、再び取水する方法もとっているらしい。この堰からの水も最終的には「めくら川」に集められて排水される。

田植え時期の水の確保は、田植え前の6月5日前後に井堰上げをして、堰の段を上げ高くして、水を用意する。雷山川の上流にある雷山大池では、川上の波多江地区などの麦の収穫の関係から6月13日頃に水門開けがある。現在は早期米の栽培などの関係から、各自自由に取水しているが、従来は水は川上から順に取っていくため一斉に田植えが行われた。6月20日前後である。

農地については区画整理が大正中期にあり、また最近昭和53～60年にかけて圃場整備が行われた。その際多くの地名が失われている。村の中央部に「古屋敷」という通称があるが、そこは微高地であり、畑になっている。

志登は水利に恵まれた土地であるが、瑞梅寺川と雷山川に挟まれ、さらに瑞梅寺川が大きく東へ、雷山川も大きく西へ湾曲しているため、ちょうど漏斗の水の出口のような地形であり、大雨のときしばしば堤が切れて、水が集まり村中浸水し、多いときには1寸程も土砂が堆積したという。

〔地名、寺社、旧跡について〕

〔地名〕

●読み方

京手（きょうで）、メグリ、才平（さいへい）、布田（ふた）、福吉（ふくよし）、外和町（そとわまち）、キシラギ、宮廻り（みやまわり）、長川（ながわ）、土穴（つちあな）、柳（やなぎ）、高田（たかだ）、橋本（はしもと）、蓮輪（はすわ）、マガリ、サソオリ、井川（いかわ）、尾北（おぎた）、松本（まつもと）、相テギ（あいてぎ）、金月（きんつき）、梶取（かじとり）、坂本（さかもと）

●字名以外に次の通称が確認できた。

サザ波（字柳）、塚本（字柳のことをいう人もいる）、宮ノ前（字餅田）、古屋敷（字マガリ）、上屋敷（字ハスワ）、ユウジャク（字橋本）、東ノ前（字高田）、アサゴ（字高田）、薬師（字高田）、西ノ前（字相テギ）、横枕（字井川）、片福（字金月のうちと片福井堰のところ）、大田（現在は大字泊字水越、かつての志登村は雷山川の西側の地が今より少し広がったらしい）、ふけの橋（字松本）、ゴキユウ（字坂本）、

他に「あした」は場所不明ながらも確認できた。延宝5年8月11日の志登村畠方人別名寄帳（中村令三郎文書）には「あした井手上」「あした川はた中」「あした土手内くり」などという地名を検出できる。おそらく雷山川の一方の岸の土手付近ではなかろうか。

- 通称「古屋敷」は大字志登の中央部にあり、微高地で現在は畑になっている。ただし圃場整備以前は畑一筆の面積は小さかった。「古屋敷」は『筑前国続風土記拾遺』（以下『拾遺』）からみられる地名であり、それ以前の史料には見られない。明応9（1500）年10月の詫磨氏所領筑前国志登村十五町分目録（詫磨文書）には「屋敷之事」として、図書助以下の住人の屋敷が列挙されている。また慶長7（1602）年9月筑前国志摩郡志登村田畠御検地帳（中村令三郎文書）では、畠方に合計して1町5段程の「いやしき」がある。この地が現在の集落と一致するか判然としないが、『拾遺』の「古屋敷」はおそらく検地帳などにみる「いやしき」の一部であろう。つまり江戸初期までは「いやしき」であったところが、江戸後期には「古屋敷」と呼ばれ、畠地へ転用された部分もあったと考える。照光寺はかつての志登社神宮寺であり、現存しないもののその跡がまさに「古屋敷」にある。また「古屋敷」の南側、付属の地図で「上屋敷」に比定した場所は1985年に発掘調査があり、10世紀～13世紀後半の掘立柱建物跡や井戸を多く検出している（前原町文化財調査報告書第20集『志登遺跡群第4次調査』）。「古屋敷」は微高地上に形成され、志登社神宮寺を核とした中世の集落といえるであろう。

〔神社・旧跡〕

1. 志登神社
 2. 鏡掛松：『筑前国続風土記附録』（以下『附録』）の「鐘掛松」ことか。
 3. 小宮：『附録』に志登神社の乾一町ばかりの田の中に森ありとするが、現在、森はない。
 4. 岩神
 5. 照光寺跡：かつては堂の基壇が残っていたらしい。
 6. 拝松：現在はなくなっているものの、昔は雷山川東岸にあった松林のことを指した。
 7. 薬師堂
 8. 天神社：志登神社内に移され、現在は祠が残る
 9. 阿弥陀堂
 10. 庚申塔
 11. 地藏さま
 12. 墓地：元禄期などの古い墓地。土地整理後、消滅。
 13. 志々岐社：現在は志登神社内にあり。『附録』には「フルヤシキ」にあるとするが、近代に移設されたかと思われる。
- 『附録』には他に「八大龍王森」「惣ノ御前社」「三隅天神森」「棹本天子社」「石仏二箇」があるとするが、未確認。
 - 10の庚申塔の他にも5、6本点在していたが、現在は志登神社へ移設。

- 志登地区の北部は1 mほど掘ると貝殻がでてくるそうであり、かつて海が近かったことを示す。志登神社は微高地であり、洪水でも浸水しないので「うきしま」と呼ばれていた。

〔志登神社の行事について〕

1月1日 年始会	10月7日 神事（『拾遺』では9月7日）
1月7日 お日待ち	10月末 神立ち
4月7日（もとは5月7日）祭典	11月末 神待ち
7月第2土曜 千度汐井（夏越祭）	12月3日 建国祭（新嘗祭）

行事は多くが七日であり、すべて志登地区全体で行う。『拾遺』には昔は毎年潤村合ノ森に神幸ありとするが、現在もそれを行っていない。『拾遺』によると、志登神社に元禄年間に藩主より神田一町六段寄付られるが、字金月など村じゅうに点在して戦前まで1町程の神田があった。

『拾遺』では花山天皇(984～986)のとき岩隈式部大蔵種美が神託により志登社大宮司を称したとあるが、現在も志登神社別当は岩隈氏である。また大字池田の産宮神社の北側の地藏堂の側に「岩隈姓之世々神霊」と刻まれた碑があり祀られている。池田には岩隈姓はなく、志登の岩隈氏のことであろう。しかしその地藏堂との関係は未調査である。

（担当：宮西）

〈池田〉 平成10年3月5日実施

波佐間忠氏（昭和9年生）、他1名より聞き取り

〔集落について〕

大字池田には4集落ある。産宮神社を中心とする地域を「本村」と呼び、従来多くが波多江姓であった。筑肥線波多江駅北側の字溝添・朝合付近を「産の宮」（さんのみや）と呼び、現在は交差点やバス停などにも見られる名称である。駅の南側には「松浦」という集落がある。池田川（瑞梅寺川）の東側には「池田東」の集落がある。

現在戸数は千を越えようとする勢いであるが、住宅化以前は本村に10戸、産ノ宮に10戸、池田東に40戸、松浦に20戸、街道沿い（字長元付近）に10戸ほどで合わせておよそ百戸くらいであった。

〔水利について〕

瑞梅寺川は池田付近では「池田川」と称されていて、池田地区はその池田川から取水している。池田東地区は大字宇田川原の共栄橋の上流に堰を持ち、そこから取水している。池田西地区は犬神井堰から取水している。この堰からは志登水路と板持水路も引かれているが、池田川が板持付近で川底が高くなるという地形上の理由から上流である程度の深さを持てる位置に堰を設けた。そこから引かれる水路は志登の分が1本、板持分は2本ある。志登・板持両水路は取水口から百mで、板持水路の1本が分岐する。この水路は波多江小学校の下をくぐり、板持地区の西南端に至る。そして志登・板持水路は現在住宅化が進む字前川原を通り、国道202号線あたりで分岐する。志登水路はそれから旧志登池南側に至る。志登・板持水路は池田地区を流れているものの、管轄権は前原市に帰属し、水利権は志登・板持両地区にある。よって水路の取扱は専ら両地区の了解を必要とする。

現在は上流の瑞梅寺ダムの設置により、普段の水量は減っている。また平成6年には渇水でダムも枯

渴したこともあり、地下水をくみ上げて灌漑している。地下水は豊富らしい。しかし昔は水争いが絶えず、井堰の管理のため、たとえ小さい用水路の堰であれ水番を張っていたとのことである。

池田西には犬神井堰の上流の大字川面の境界線上に堰があるものの、現在はそれほど重要視されていないらしい。

かつて池田川の土手の草刈りにも牛馬の飼料のため地区同士の入会権があった。

当地は住宅化が進行しているため、圃場整備を行っていない。

(担当：永江)

〔地名、神社、旧跡について〕

〔地名〕

●読み方

横枕（よこまくら）、中上町（ちゅうじょうまち）、垣内（かきうち）、大五郎（おおごろう）、ハジカメ、向城（むくしろ）、下川原（しもがわら）、十徳（じっとく）、中の坪（なかのつぼ）、敷町（しきまち）、川原田（かわばるだ）、大日川原（だいにちがわら）、宮園（みやぞの）、前川原（まえがわら）、長元（ながもと）、朝合（あさごう）、溝添（みぞぞえ）、井田（いだ）、宮の前（みやのまえ）、立野（たての）

●新たに検出できた地名

フカマチ（字中の坪・敷町・大五郎の間）、マエダ（確認できた地藏堂の付近カ）

〔神社・旧跡〕

1. 産宮神社：祭神は奈留多姫命。境内に宮地岳神社、庚申塔、祠四あり。
 2. 猿田彦神：産宮神社境内。『筑前国続風土記附録』（以下『附録』）には「サヤ」にありとするため、後世に移設されたか。「サヤ」の地名は不明。
 3. 地藏堂：堂の隣に「岩隈姓之世々神霊」と刻んだ石碑など三基あり。年代不詳。
 4. 大日堂：池田東の住民が祀っている。
- 『附録』には他に田神祠、薬師堂を記載するものの、確認できず。

〔産宮神社の行事〕

当神社は『筑前国続風土記拾遺』（以下『拾遺』）、『附録』によると神功皇后の三韓征討の際、産期の延引を奈留多姫命に願い、その験があって帰陣の後に皇子を降誕したことに由来する。

2月25日 例大祭：百手の射（ももてまとい）神事

4月25日 祈年祭：大神楽

7月24～25日 夏越祭：大祓

10月25日 秋大祭（神祭）：供日

11月25日 感謝祭（神嘗祭）

他に小・中祭あるが、大祭のみを記す。ここを祀るのは『筑前国続風土記拾遺』『附録』には池田村と波多江村の川面・楠木とするが、現在は池田地区のみ。

(担当：内田)



